

防災

日頃から災害に備えて被害を最小限に！

近年、世界各地で自然災害が頻発しています。国内でも今年に入ってから能登半島地震、新潟県中越沖地震などの大規模な地震や、大雨による洪水・土砂災害の発生などにより、多くの方々が犠牲になっています。昔から、災害は忘れた頃にやってくる」と言われていますが、最近では「いつでもどこでもやってくる」と言っても過言ではありません。8月30日から9月5日は、「防災週間」です。過去に留萌で起きた災害を振り返り、この機会に災害に対する備えをチェックしてみましょう。

まだ、記憶に新しい留萌の大水害！

昭和63年8月25日、留萌は、史上最大級の集中豪雨による大水害に見舞われ、市内では土石流の発生や、家屋の浸水のほか、農・林・水産業、商工業などに大きな被害を受けました。

この災害により被害を受けた方は、3710世帯、9499名。被害額は、69億7913万円にも上りました。

留萌地域は、ほかの地域に比べ、災害も少なく安全な地域のイメージが強いと思いますが、過去にはこのような大災害が起きています。このように、各地で毎年のように大きな被害をもたらしている災害ですが、市民の皆さんの日頃からの備えによって被害を最小限に食い止めることができます。

地震や津波災害に備える



阪神淡路大震災では、地震発生が早朝だったということもあり、就寝中に倒れてきた家具の下敷きになる

日本では、震度4以上の地震が毎年30回程度発生しており、いつでもどこでも発生してもおかしくありません。しかし、地震発生を予測することは大変難しいため、日頃から地震に対する備えが大切です。

ど、多くの人的被害がありました。また、地震の震源によっては、津波を警戒しなければなりません。特に、海岸付近にお住まいの方や、地震発生時に海岸付近にいた場合、グラッと揺れたらすぐに、安全な場所へ避難することを考えなければなりません。テレビやラジオなどの情報に注

非常時持ち出し品を備える

- ### 家具などによる被害防止チェックポイント
- 可能な限り、家具をねじや市販のつっぱり棒などでしっかり固定する。
 - 棚などには、なるべく重いものを下の段に収納する。
 - 開き戸式の戸棚には、止め金をつける。
 - なるべく家具の上には物を乗せない。特にテレビの上の水槽は最も危険。
 - 吊り下げ式の照明器具は、補助のチェーンなどで固定する。
 - 食器棚や窓のガラスには、テープなどにより飛散防止の対策を。

非常時持ち出し品リスト

品	目
懐中電灯	携帯ラジオ
飲料水	非常食
タオル	その他ライター、ナイフ、缶切り、ティッシュなど。予備の電池は、多めに用意しておきましょう。
貴重品	救急セット
衣類	ロープ



「停電」「断水」「避難所生活」など、災害が発生すると、突如として、日常とはかけ離れた生活を余儀なくされます。このような場合に備え、日頃から非常時に必要な物品を備えておきましょう。

また、非常持ち出し品は、各家庭によってそれぞれ準備する内容が違います。例えば、赤ちゃんがいる家庭ではミルクやオムツ、要介護者のいる家庭では補助具の予備や常備薬など家族構成や人数に合わせた準備を心がけましょう。

大雨や台風などの風水害に備える



台風や大雨の来襲時期や規模などは、気象情報などにより、ある程度予測することができます。台風時に多く発生する人的被害のひとつに、風や雨が強くなつてからの屋外作業があげられます。家屋周辺の点検【表1】を、日常的に行うことで、このような被害を防ぐことができます。

【表1】家屋周辺の日常点検

項目	チェックポイント
屋根	トタンが剥がれたりしていないか
	アンテナはしっかり固定されているか
ベランダ	強風で飛ばされそうな物を置いてないか
窓ガラス	ひび割れ、破損、ぐらつきはないか
庭など家屋周辺	植木鉢などの落下物はないか
車庫	シャッターが外れそうになっていないか

【表2】雨の強さと災害発生状況

1時間降雨量(ミリ)	予報用語	災害発生状況
10以上20未満	やや強い雨	この程度の雨でも長く降り続く時は、注意が必要。
20以上30未満	強い雨	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30以上50未満	激しい雨	山崩れ、崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50以上80未満	非常に激しい雨	マンホールから水が噴出し、多くの災害が発生する。
80以上	猛烈な雨	雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

また、日頃から天気予報などの気象情報表【2】を気にかけて、災害の恐れがあるときは、早めに避難の準備をしましょう。自分で対応できないものは、専門業者などに相談しましょう。



今年も市民防災訓練を実施します

市では、災害に対する住民一人ひとりの意識の高揚と、地域における災害時の初期行動や役割を確認することを目的として、昨年に引き続き、今年も市民防災訓練を実施します。日頃から防災意識を高めてもらうためにも、是非訓練に参加していただきたいと思います。

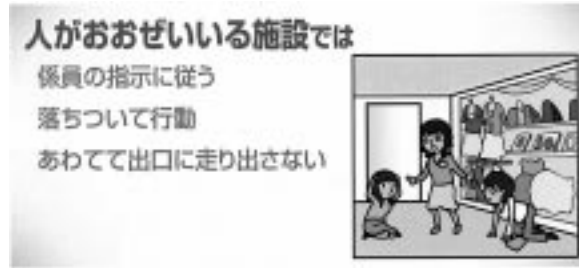
■日時 9月2日(日)午前9時
 ■場所 港西コミュニティセンター、三泊小学校、東部地区公民館



緊急地震速報

10月1日、スタート

気象庁は、地震による強い揺れを事前にお知らせすることを目指す新しい情報「緊急地震速報」の一般向け提供(テレビ・ラジオ等)を、今年10月1日から開始します。緊急地震速報は見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません。その短い間に身を守るための行動を取る必要があります。ただし、震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。



周囲の状況に
応じてあわてずに
まず身の安全を
確保して下さい

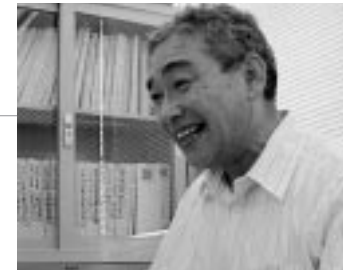


緊急地震速報については、気象庁HPに掲載しています。

アドレス: <http://www.jma.go.jp/> 留萌測候所 ☎ 42・0418

自主防災組織を作りましょう!

近年、災害時における自主防災組織がクローズアップされています。自主防災組織について、留萌市役所総務課で防災を担当している中村和則参事にお話を聞きました。



被災者へ炊き出しする住民(訓練)



自主防災組織も訓練に参加

いざというときの
地域住民パワー!

平成7年1月に発生した阪神淡路大震災でも明らかにになりましたが、大規模災害における生き埋めや建物の閉じ込めなどによる救助・救出は、95%が自力か家族や隣人によって救助されており、専門の救助隊により救助されたのはわずか1・7%にすぎません。このことから、消防等の公的機関が災害発生直後に多数の被災者に迅速な対応を図ることは、非常に困難であり、人命救助や初期消火活動は、近隣住民の力に負うところが大きいことがわかりました。

この言葉が用いられました。自主防災組織とは、自分たちの地域は自分たちで守る」といった心構えをもち、町内会など地域の人たちが自発的に防災活動を行う組織です。その役割は、災害が発生したときに住民が協力し、いち早く負傷者の救出・救護や火災の初期消火活動を行うなど、被害を最小限に食い止めて、自力で災害から地域を守ることです。昨年、留萌市内においても、町内会やコミュニティセンター連絡協議会において自主防災組織が結成され、今後の活動が期待されます。まだ自主防災組織が結成されていない町内会など、ぜひ、自主防災組織の結成をお願いいたします。

自主防災組織のこと
もつと知りたい方は...

自主防災組織について、詳しく知りたい方は、9月2日に行われる市民防災訓練の見学や、防災担当者が直接出向いて説明するお茶の間トークをご利用ください。

詳しい内容は、左記までお問合せください。

■ 防災や、自主防災組織に関するお問い合わせは、総務部総務課防災担当(☎42・1801)まで
■ お茶の間トークに関するお問い合わせは、政策経営企画調整課(☎42・1809 / FAX 43・8778)
Eメール: kikaku@e-rumoi.jp



豪雨のなか自主非難する住民